



# Unfold Roine Stolt the Interview Future

全部リミックスとリマスターをやりなおしたよ。

John (以下J): Roineこんにちは。

Roine Stolt (以下R): こんにちは、John。

J: 調子はどうですか？

R: やっとニューアルバムのミックスが終わったところだよ。それとフロントカバーをチェックして、残りのアートワークはInsideOutに任せてある。

J: それって珍しいですよ。あなたはいつもアートワークは自分で行いますよね。

R: そうだね。でも今回は本当に時間がなくて。今回のカバーはThomas Ewerhardにやってもらった。Spock'sを手掛けた人と同じだよ。幾つかアイデアを送ってくれて他のメンバーに見せたんだけど、みんな同じアイデアを気に入ってね。それからThomasはそれに手直しをして僕達のリクエストに部分的に少し変えて貰った。ブックレットに付く他のアートワークは…僕にアイデアが幾つかあってね。今回は少し変わったものにしたかったんだ…特別なものにね。CDが店頭に並べば判るよ。ちょっと説明するには難しいな。

J: ではニューアルバムは完成したのですね。仕上がりには満足していますか？

R: 音楽的な面で言えば、非常に満足しているよ。作曲という点では何曲かは非常に、とても非常に素晴らしいものだよ。個人的な意見を言わせてもらえば、今回のアルバムは僕達が今まで作った中でベストだよ。"Flower Power"に入っている"Garden of Dreams"よりも、"Stardust We Are"よりもね。ミックスやマスタリングに関しては、今は満足してるよ。

J: 今ってどういう事ですか？

R: うん、2週間程前に最初のミックスとマスタリングを終えたんだ。InsideOutが決めたデッドラインがあったからね。でも残念な事にその段階ではやりたい事がきちんと全部出来なかったんだ。だから、とても満足出来なくてね。このアルバムではみんな違うファイルを使っていて、まずそれを一つにまとめて一曲一曲作り上げなくてはいけなかった。そうやっている内に自分が求めていた物とかが判らなくなってしまっただけね。最後の曲、"Devils Playground"のミックスを終えた後、15分以内にマスタリングを施さなくてはいけなかったんだ。

New Album “Unfold the Future” がリリースされました。皆さんも興味深いRoineさんの生の声がいっぱいインタビューです。それにしても壮絶な戦い(?)があったんですね。。。ミュージシャン魂です。

聞き手は御存じ、WOAのドン、Johnです。

# Unfold the Future

いいかい？少しでも音楽業界に関わった事がある人なら判ると思うけど、これは決して良い流れではないんだ。普通ならミックスを終えた後、数日間のオフを取ってその後ミックスされた物を聴き返して他のメンバーと話し合っただけで彼等の意見を取り入れる。その時にリミックスをするかどうか、マスタリングに進むかを決めるんだ。本当に時間が差し迫っていたし、凄く疲れてはいたけど、デッドラインがあったから、どうしてもInsideOutに渡さないといけなかったしね。

J:それで、どうしたんですか？

R:全部リミックスとリマスターをやりなおしたよ。

J:えっ！

R:うん。朝の9時に始めて翌朝の3時か4時まで作業をするという日々が2週間程続いたよ。凄い経験だったね。

J:どれくらいオリジナルと違うんですか？

R:最初のミックスでは曲に足りない物があると感じていたし、ローエンドが足りないとも思っていた。オリジナルCDの40分近くはリミックスしたと思うよ。曲は同じだけどね、サウンドは全く違うよ。

J:オーバーダブはしたのですか？

R:勿論。Tomasが来て2日かけてオルガンやメロトロンを足したし、ベースシンセも足した。僕はギター、アコースティックギターやパーカッションを足したよ。

J:それらが全部オリジナルミックスから付け加えられた？

R:そう。だから、これらはポストプロダクションみたいなものだね(笑)。いや、つまり、今までにここまで変えるような作業はした事がなかったからね。普通ならこの段階で変える事っていったら、本当に小さな事だけなんだ。今回のCDでは40ヶ所か50ヶ所は変えてあるからね。

J:凄い多いですね。

R:ああ。

J:結果としてどのようなサウンド、フィードバックになりました？

R:更に温かみが出て、ビッグなサウンドになったし、更に充実したよ。マスタリングの時に音をあまり圧縮せずにレベルを上げる為にトリックを幾つか使ったね。だからオリジナル(註:ミックス)より音が良くなっているよ。ミックスにあまりベースの音を入れ過ぎないように気を付けた。そう

するとちょっと泥濘にはまったような感じになってしまうんだ。今回のミックスでは、音をちょっと平面にするように、ミッドレンジに集めて、ローエンドを足してマスタリングした。そうする事によって更に正確な音が出来上がるんだ。勘違いして欲しくないんだけど、これは1,2デシベル程度の段階の話なんだよ。ファンはここまで聴こえないだろうね。でも最終的には違いに気が付くと思うんだ。更に温かみがあって、充実したサウンドになっているからね。

J:それで、InsideOutはOKを出したんですか？

R:勿論。彼等は100%サポートしてくれたよ。彼等もリミックスを施して正解だと思っていると伝えてくれた。最終的にはやって良かったよ。InsideOutはオリジナルミックスをプロモーション用のコピーに使って宣伝しているからね。実際に売られるのは新しいミックスだ。

J:えっ！

R:うん、判るよ、何を考えているか。

J:そのプロモ・コピーがどれだけの人が欲しいか容易に想像がつかますね。

R:そうだね。最初僕はそれを良いアイデアだとは思わなかった。僕は雑誌やラジオの人達にきちんとした状態の物を聴いて欲しかったから。でも今は1,500枚のプロモーション用CDが出回っていて、ファンは殺しあいをしないうまでも、このコピーを手にするまで色々な手段を使うだろうね。



Photo by  
Kristoffer  
Olsson

今日、Thomas Waber(InsideOut Europeのトップ)と話をしたんだけど、彼も同じ事を言っていたよ。勿論、みんな新しいミックスの方が良いと思ってくれるだろうけど、(プロモ盤は)きっとロシアの闇市で売られるだろうね(笑)

J:どちらのバージョンであれ、ファンとしてはやっぱり作曲面が一番気になる所だと思うんですよ。ファンが曲を気に入れば、あまりにも酷い音でない限り、満足すると思いますよ。今あなたが話して下さった事は非常に複雑で…

R:全くその通りだね。

J:僕みたいな人間には…今言われた事を理解するには…

R:そうだね。ただ僕にはその曲にある可能性が見えて、さらに良く出来る、という事が判っていたんだ。一番の問題は今回は色々な形で違った手法を使って録音をしたから、きちんと正しくまとめるのが大変だったんだ。

"The Truth Will Set You Free"の方は今までに書いた曲の中で最強の出来だと自負しているよ。

J:違った形で録音をした、というのはどういう意味ですか？

R:例えば、レコーディングが終わった後、僕と、Tomas, Jonas, Zoltanと一緒にいた時があったんだ。いいかい？僕達がこんな風と同じ時に集まっているなんて本当に滅多にないんだ。ドラムセットはセットアップされていて、ベースもプラグに入っている、という状況でね。だから、キーボードとギターをプラグに差し込んだら何か起こるか見てみようと思ってね。それで、やってみたんだ。僕達は2つの長いジャムをやって、そこから2ヶ所アルバムに入れたよ。

J:ワオ！

R:だろ？だから、これらの曲は本当に「星屑」(註:Roineは'stardust'と呼んでいるが、

ジャムでできた曲の断片の事と思われる)から出来たものなんだよ。オーバーダブも何の手直しもしてない。僕達がプレイしたまんまだよ。

J:どのトラックに入っているんですか？

R:最初のは"Christianopel"という曲。これは僕達がドラムを録音した村の名前から取ったんだ。もう一つは"Soul Vortex"。この2つの曲には僕達4人の名前がクレジットされているよ。もう一つ、"The Devil's Dance School"という曲がある。これはJonasとZoltanが書いた曲でトランペットプレイヤーのAnders Bergcrantzという人と一緒にJonasのスタジオで録音をしたんだ。彼等はそれを僕に送ってくれて、それにギターをオーバーダブした。これもちょっとしたジャムセッションのようなものだよ。こういうのは今までにないスタイルだよ。もっとMiles Daviesっぽいフィーリングがある。

J:トランペットが入るとまた違った側面が生まれますよね？

R:うん。それにAndersは本当に素晴らしいプレイヤーだ。彼はトップクラスだよ。本当に素晴らしい。Jonasが"Devil Dance School"を僕に聴かせてくれた時、本当に衝撃的だったね。

J:2つの長い曲はもっとシンフォニックな感じなんですか？

R:"The Truth will Set You Free"と"Devils Playground"は僕が本当に長い時間を掛けて書いたものだよ。特に"Truth"の方はね。本当にこの2つの曲に関しては頑張ったよ。"The Truth"の方は今までに書いた曲の中で最強の出来だと自負しているよ。作曲面で言えば、"Stardust We Are"や"Garden of Dreams"よりも強力だと思うね。全体的に見ても、今までの中でもベストだね。この曲があったからこそ、リミックスをしなくては行けないと思ったのも事実だよ。最初のバージョンではドラムがきちんと鳴っていなかったし、Zoltanという素晴らしいプレイヤーの本質を捉

えていなかったと思う。だから、もっと(ドラムを)全面に出したいと思ったんだ。本当に素晴らしいプレイの数々が収められていたからね。ドラムサウンドはキーボード、ボーカルやギターの音にかき消されたような状態だったからね。それで、この新しいミックスではドラムはもっとパンチの効いたものになったし、表情が豊かになったと思う。

J:では、色々とヴァリエーションがある訳ですね。

R:そうだね。それに、僕達がそうするのは凄く重要な事だと思うんだ。それは何もこのアルバムに限らずにね。The Flower Kingsのファンというのは非常にバンドに入れ込んでくれるし、とてもロイヤルだ。彼等は1枚や2枚持っている、というレベルではないんだよね。本当に全部のアルバムを揃えてしまうタイプなんだ。もしもライブでファンにどれくらいアルバムを持っているか問いかけたら、きっと殆どの人がスタジオアルバム全部って答えるよ。賭けてもいいよ。だから、ファンがスタジオアルバム全部持っているならば、同じようなアルバム、同じような曲をアルバムに沢山入れたらダメなんだよ。だから、新しいアルバムと"Stardust We Are"をもし比べるならば、両者は全く違うアルバムだと言えるね。そこには確実に成長の跡が見えるよ。事実、"Stardust"はシンフォニックなアルバムだったけど、今度のはもっとプログレッシブなアルバムだ。何故なら、今回はジャズ/フュージョンの要素が強いし、エレクトロニックの要素まで入っている。短い曲に関して同じ事が言える。何曲かはポップな感じがするけど、それは"Different People"や"Ghost of the Red Cloud"みたいなものとは違う。そうだな、強いて言うなら、もっとBeatlesっぽい感じかな。もしかしたら、David Bowieっぽい所もあるかもしれない。それに凄くナイスなバラードもあるよ。

J:誰でも聴けるような？